

いい生活

従来不動産会社が物件をインターネット上の物件紹介サイトに載せるには、サイトごとに物件情報を入力する必要があった。いい生活のクラウドサービスを使えば、物件情報を一度登録するだけでさまざまなサイトに情報を載せられ、情報の更新も一括して行える。いい生活はITで不動産が関わる世界の革新を目指している企業だが、布能さんはその中でこのような不動産会社の業務を効率化するサ



おみ 菜穂 美さん
な おみ 菜穂 美さん
のう 布能 菜穂 美さん
(エンジニア)
16年工学部卒

入社前に仕事をイメージ

ビスの開発を任されている。大変なのは「バグの原因を特定できないとき」。しかし経験を積むにつれバグに迅速に対処できたり、より良い対処法を考えついたりするようになり、成長を実感する。

大学4年でのアプリ開発のアルバイトも今に大きく生きている。今の仕事と同じチーム開発を学んだ上「働く」とはどういうことを知ったという。働く自分を事前にイメージできたことでスムーズに社会人生活を始められた。

今の仕事を選ぶきっかけは幼稚園時代にまでさかのぼる。当時米国に住んでいた布能さんは家にあったパソコンで「英語のゲームをしていた記憶があります」。自然にパソコンへの興味を抱いた。大

学1年の冬に授業でプログラミングを学び「難しいけれどやりがいがある」と面白さを実感。進学振分け(当時)では工学部電子情報工学科に進学した。大学院進学も考えたが悩んだ末に就職を選んだ。

「仕事で世の中の役に立ちたい」。その強い思いからだった。悩んだことで就活は出遅れ、9月から始めた。

就活担当の教員の紹介で、いい生活の説明会に参加。若い世代が多く活気があることや「親切な人が多い」と感じたことが志望につながった。就活の開始時期は遅かったが実はあまり苦労しなかったという。理由は「ご縁のおかげかな」と笑う。「皆さんが良いご縁に巡り合えることを願っています」

人事の声

「ITで不動産市場をより良く」をミッションに、不動産会社向けのアプリ開発を行っています。当社のアプリは不動産会社の生産性の向上に加え、消費者に正確な情報を届けることで不動産

という人生で最大の支出を手助けします。「IT×不動産」は新しい領域なので目標となる

自ら新領域を開拓

先達はいません。そのため何が市場で求められるか自分で考える必要があります。道を切り開く気

概があり決められた道がないことを楽しめる人に向いているでしょう。学生と話すとき彼らは30

40年先を想像しすぎていると感じます。好きなことを初めから見つけるのは難しい。仕事をしな

から出会うという発想も必要です。キャリアは遠い未来を予想して「今」選択するものではなく、創っていくもので、自分が歩いてきた道を振り返ればそこにあるもの。そんなしなやかな仕事観を持って就活に挑んでほしいですね。(談・塩川拓行さん、代表取締役)

無断転載・複写を禁ずる

※ 発行元からの掲載許可を取得済み